

## 15. 国際協力室

室長 磯貝 達裕

### 概要

今日、公衆衛生上の大きな脅威となるような新興・再興感染症が、地球上のあらゆる地域から、短期間のうちに我が国に侵入する可能性がある。MERS、鳥インフルエンザなど新たな病原体による感染症が見つかる一方、未だ多くの感染症が我が国及び周辺国において流行を繰り返している。このような状況のなか国民を感染症から守るため適切な対応を取るためには、世界規模での情報収集、研究・技術面での国際貢献等、世界保健機関(WHO)や諸外国の研究機関や国内関係機関等との連携調整が重要である。

国際協力室は、平成9年設置後、国立感染症研究所の所掌事務に係る国際的な協力と調査及び研究の調整を行っている。具体的には、外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)等から厚生労働省、国立国際医療研究センター等を通じて依頼される開発途上国等に対する技術協力(外国人研修員の受け入れを含む)の調整、国際機関である世界保健機関(WHO)・同西太平洋地域事務局(WPRO)及び外国政府機関等との協力(感染症国際対策のための専門家派遣、保健大臣等要人の受け入れ等を含む)の調整、関係外国研究機関との協力調整等、以下の業務を実施している。

### I. 諸外国との技術協力の調整

諸外国との技術協力については、外国人研修生の受け入れと、国立感染症研究所からの専門家の派遣といった人的交流がその中心となる。外国人研修生の受け入れについては、平成31年4月から令和2年3月までに、45カ国・地域から159名を受け入れた(別表1)。また、国立感染症研究所の専門家の派遣については、平成31年4月から令和2年3月までに、48カ国・地域に380名を派遣した(別表2)。

また外国政府機関との協力については、関係国との国際シンポジウムの開催を行っており、その概要は以下のとおりである。

#### 1. 外国機関との連携協力

##### (1) 各国との感染症協力体制

###### ア MOUの締結

なし

##### イ シンポジウム開催

- (ア) 令和元年9月5-6日 台湾の感染症研究機関である台湾国立疾病予防センター(台湾 CDC)と第16回日本—台湾感染症シンポジウムを開催(国立感染症研究所にて、感染症のための革新と備え、ワクチンで予防可能な疾患、感染症予防と管理に関する現在の話題、台湾 CDCと国立感染症研究所間の共同研究、実地疫学専門家養成コースを題材に、両機関における取り組みなどについて意見交換を行い、情報を共有した。)
- (イ) 令和元年11月19-21日 日本・中国・韓国の国立感染症研究機関[感染研、中国国立疾病対策予防センター(中国 CDC)、韓国国立感染症対策センター(KCDC:現 KDCA)]の第2回感染症分野に関する共同研究シンポジウム及び、第13回日中韓感染症フォーラムを開催(上海にて、これら三機関から感染症対策、研究等に携わる専門家が参加し、同シンポジウムでは、「熱帯病への予防と多国間協力」について、また感染症フォーラムでは、薬剤耐性(AMR)や昆虫媒介感染症等の対処の他、インフルエンザのパンデミックに対する備えなど、感染症対策に関する各機関の取り組み状況について、発表と討議を行った。)

##### ウ 外国機関へのワクチン株供与

なし

##### エ 共同研究報告会ほか

なし

### 2. 国際協力・研修業務

#### (1) JICAの研修への協力

##### ア 集団研修

- (ア) 令和元年6月3日-7月12日 「HIVを含む各種感染症コントロールのための検査技術とサーベイランス強化」(10カ国・12名・エイズ研究センター、感染症疫学センター、バイオセーフティ管理室、ウイルス第二部)。

## 国際協力室

- (イ) 令和元年 7 月 17-19 日 「AMR 及び狂犬病、動物管理」(1 カ国・6 名・獣医科学部、バイオセーフティ管理室、動物管理室、薬剤耐性研究センター)
- (ウ) 令和元年 8 月 25-31 日 「チョーライ病院運営・管理能力向上支援プロジェクト-遺伝子検査機器(シークエンサー)運用視察・技術指導・意見交換」(1 カ国・4 名・薬剤耐性研究センター、バイオセーフティ管理室)
- イ 集団研修フォローアップ  
なし
- ウ その他研修
- (ア) 令和元年 5 月 21 日 「気候変動への適用」(7 カ国・7 名・昆虫医科学部)
- (イ) 令和元年 11 月 25-29 日 「重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学(管理者向け)」(9 カ国・11 名・インフルエンザウイルス研究センター、バイオセーフティ管理室、感染症疫学センター、ウイルス第一部、薬剤耐性研究センター)
- (2) JICA 技術プロジェクト等への協力
- ア ベトナム国における「感染症の予防・対応能力向上のための実験室の機能及び連携強化プロジェクト」
- (ア) 派遣
- ① 令和元年 6 月 3-7 日 獣医科学部 職員 1 名
- ② 令和元年 6 月 10-15 日 インフルエンザウイルス研究センター 職員 1 名
- ③ 令和元年 6 月 27 日-7 月 2 日 バイオセーフティ管理室 職員 1 名
- ④ 令和元年 10 月 1-5 日 バイオセーフティ管理室 職員 1 名
- ⑤ 令和元年 11 月 17-22 日 インフルエンザウイルス研究センター 職員 1 名
- ⑥ 令和元年 11 月 25-29 日 ウイルス第一部 職員 1 名
- イ ベトナム国における「チョーライ病院向け病院運営管理能力向上支援プロジェクト」
- (ア) 派遣
- ① 令和元年 5 月 19-31 日 薬剤耐性研究センター 職員 1 名
- ② 令和元年 11 月 17-21 日 薬剤耐性研究センター 職員 1 名
- ウ ジンバブエ国における「HIV を含む各種感染症コントロールのための検査技術とサーベイランス強化」フォローアップ協力に係る調査
- (ア) 派遣
- 令和元年 8 月 31 日-9 月 8 日 エイズ研究センター 職員 2 名
- (3) 国際緊急援助隊への協力
- ア コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱に関する国際緊急援助隊への協力
- (ア) 派遣
- ① 令和元年 8 月 10-26 日 調査チームとして ウイルス第一部 職員 1 名、感染症疫学センター 職員 1 名
- イ 研修  
なし
- (4) その他研修協力
- ア 名古屋大学大学院
- (ア) 令和元年 6 月 20 日 「医学系研究科修士課程医科学専攻医療行政コース・ヤング・リーダーズプログラム」(7 カ国・11 名・薬剤耐性菌研究センター)
- イ 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
- (ア) 日本・アジア青少年サイエンス交流事業
- ① 令和元年 7 月 31 日-8 月 9 日 疫学調査手法(5 カ国・9 名・企画調整主幹、感染症疫学センター、薬剤耐性研究センター)
- (イ) SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム
- ① 令和元年 11 月 28 日 薬剤耐性真菌検出のための新規検査法の開発とブラジルにおける疫学調査等への応用(ブラジル・5 名・真菌部、感染症疫学センター、薬剤耐性研究センター)
- 3. 国際機関及び外国政府機関等との協力の調整**
- (1) WHO・WPRO 関連調整
- ア 会議等開催  
なし
- イ 会議等派遣
- (ア) 平成 31 年 4 月 22-26 日参加 西太平洋地域における薬剤耐性サーベイランス強化に関する会議(フィリピン・2 名)
- (イ) 平成 31 年 4 月 30 日-5 月 5 日 インフルエンザ

## 国際協力室

- パンデミックリスク評価の手法の改変に関する会議(スイス・1名)
- (ウ) 平成31年4月30日-5月5日 第2回RSウイルスワクチンの品質、安全性及び有効性に関するWHOガイドラインのための非公式協議(英国・1名)
- (エ) 令和元年6月9-15日 ポリオ実験室診断小委員会会議(スイス・1名)
- (オ) 令和元年6月16-22日 WHO WPRO 第27回TAG/EPI (ワクチン予防可能疾患専門家助言会議(フィリピン・7名)
- (カ) 令和元年6月17-23日 WHO EIOS (Epidemic Intelligence from Open Sources) Coordination Group 会合(フランス、スイス・1名)
- (キ) 令和元年6月23-28日 WHO 西太平洋地域事務局が主催するASPEDIII (Asia Pacific Strategy for Emerging Diseases) (フィリピン・3名)
- (ク) 令和元年6月24-30日 第17回麻疹風疹世界実験室ネットワーク会議(オランダ・3名)
- (ケ) 令和元年7月8-14日 第20回WHO ERL, CCs, インフルエンザワクチン製造所 NIBSC 関係者会議(英国・1名)
- (コ) 令和元年7月14-18日 Global Benchmarking Tool (GBT)会議(スイス・1名)
- (サ) 令和元年7月21日-8月3日 モンゴル国ショナルインフルエンザセンターのスタッフを対象にインフルエンザウイルス分離株の抗原性解析改良手法の技術移転指導(モンゴル・1名)
- (シ) 令和元年8月19-24日 WHO 西太平洋・東アジア地域主催の第13回西太平洋-東南アジア地域国立インフルエンザセンター会議(モンゴル・3名)
- (ス) 令和元年9月9-13日 公衆衛生における検査システムを強化するための地域会議(フィリピン・1名)
- (セ) 令和元年9月21-29日 南半球インフルエンザワクチン株選定会議及びWHO コラボレーションセンター、サーベイランス対応システム主要研究機関会議(スイス・3名)
- (ソ) 令和元年10月20-26日 WHO 生物学的製剤の標準化に関する専門家会議(スイス・3名)
- (タ) 令和元年10月28日-11月2日 WHO ポリオ実験室診断小委員会会議(米国・1名)
- (チ) 令和元年11月3-9日 第3回生物製剤NCLネットワーク会議(南アフリカ・2名)
- (ツ) 令和元年11月4-6日 第10回WHO 西太平洋事務局圏内日本脳炎特別検査機関および地域検査機関における非公式コンサルテーション会議(中国・1名)
- (テ) 令和元年11月4-8日 WHO 第24回ポリオ研究会議(スイス・1名)
- (ト) 令和元年11月4-8日ヘビ抗毒素免疫グロブリンの事前審査に係るワークショップ(タイ・1名)
- (ナ) 令和元年11月11-15日 WHO 第25回WHO 西太平洋地域におけるポリオ根絶の認証に関する地域委員会(カンボジア・1名)
- (ニ) 令和元年11月11-15日 EIOS グローバルテクニカルミーティング(韓国・2名)
- (ヌ) 令和元年12月8-15日 WHOからの要請に基づく、FETP のプログラム評価(ラオス・1名)
- (ネ) 令和元年12月15-27日 麻疹、風疹、ジフテリアのアウトブレイクに対する準備・対応に関する技術的ガイダンスとりまとめ(フィリピン・3名)
- (ノ) 令和2年1月4-8日 WHO ワクチン部門に属する専門家からワクチン忌避の状況や対応を中心に情報収集等(スイス・1名)
- (ハ) 令和2年1月12-18日 諸外国の予防接種導入プロセス等の会議(スイス、英国・1名)
- (ヒ) 令和2年2月10-14日 新型コロナウイルスの国際研究開発に関するフォーラム(スイス・1名)
- (フ) 令和2年2月13-16日 西太平洋地域における将来的なポリオワクチンスケジュールに関する非公式会議(フィリピン・1名)
- (ヘ) 令和2年2月15-24日 WHO 中国派遣ミッション(中国・1名)
- (ホ) 令和2年2月22日-3月2日 北半球インフルエンザワクチン株選定会議、インフルエンザ世界的監視、対応システム (GISRS) の WHO コラボレーションセンターおよび ERL 会議ならびにインフルエンザ緊急事態の迅速リスク評価に関する会議(スイス・2名)
- ウ WHO フェロシップ受入  
なし
- エ WHO 評価団による視察  
令和元年8月20-23日にWHOによる日本脳炎、ポリオ検査施設に対するレビューが行われた(ウイルス第一部、ウイルス第二部)
- オ WHO 総会及び執行理事会に関する対処方針案への厚生労働省からのコメント依頼への対応

#### 4. その他協力、調整

##### (1) 国際会議支援(所内開催)

- ア 令和元年6月24日 第1回タイ国立生物製剤品質管理研究所 (IBP) ワクチン及び生物製剤の品質管理分野の研究協力に関する会議(タイ・3名・ウイルス第一部、細菌第二部、品質保証・管理部)
- イ 令和元年7月17日 日本/米国 CDC-ラボラトリーレスポンスネットワークコラボレーションに関する会議(米国・2名・ウイルス第一部、ハンセン病研究センター、品質保証・管理部、感染症疫学センター)
- ウ 令和2年1月15-16日 中国 CDC と感染研の共同研究会議(中国 CDC・4名・インフルエンザウイルス研究センター)

##### (2) 国内会議支援(所内開催)

なし

##### (3) 海外の要人来訪

- ア 令和元年5月13-17日 台湾 CDC アシスタントテクニカルスペシャリスト1名訪問。業務内容聴講及び実験室見学。
- イ 令和元年5月21日 中国四川省内江市 CDC 8名表敬訪問。意見交換。
- ウ 令和元年6月27日 米国保健福祉省 副長官補・他 5名表敬訪問。意見交換。
- エ 令和元年7月5日 アフリカ記者グループ5名表敬訪問。意見交換。
- オ 令和元年8月27日 台湾国立中興大学獣医学部長・他3名表敬訪問・視察。
- カ 令和元年8月29日 コンゴ民主共和国国立生物医学研究所 (INRB) Jean-Jacques Muyembe-Tamfum 博士表敬訪問。
- キ 令和元年10月10日 米国 CDC 講師緊急管理スペシャリスト・他4名表敬訪問。
- ク 令和元年12月17日 中国遼寧省 CDC 主管技師1名訪問。業務内容聴講及び実験室見学。
- ケ 令和元年12月25日 ブータン王立疾病管理センター(Royal Centre for Disease Control) 所長および国立動物衛生センター(National Centre for Animal Health) 所長表敬訪問。
- コ 令和2年1月15日 中国 CDC Chinese National Influenza Center 副センター長・他1名表敬訪問。
- サ 令和2年1月15日 タイカセサート大学獣医学部学部長・他3名表敬訪問。
- シ 令和2年2月3、19日 モンゴル駐日モンゴル国大使館 特命全権大使・他2名表敬訪問。

ス 令和2年2月14日 国連担当官2名表敬訪問・視察。

セ 令和2年2月14、25、27日 中国駐日大使館3名表敬訪問。

ソ 令和2年3月5日 シンガポール在京シンガポール大使館 大使・他1名表敬訪問。

タ 令和2年3月13日 キルギス在日キルギス共和国大使館 大使・他1名表敬訪問。

チ 令和2年3月16、27日 カザフスタン在日カザフスタン大使館 大使・他1名表敬訪問。

ツ 令和2年3月25日 ナイジェリア CDC シニア検査技術顧問表敬訪問。

##### (4) 感染研セミナー等の開催

なし

## II. その他の国立感染症研究所所掌事務に係る調整等

### 1. 国際交流事業に係る募集・申請等

日本学術振興会等国際交流事業(外国人研究者招へい、国際学会等派遣に係る募集、申請手続、調整等)を行っている。

- (1) 外国人特別研究員
- (2) 二国間共同研究

### 2. 国際協力連絡・調整等

- (1) 実地疫学専門家養成コースに係る調整の他、厚生労働省結核感染症課、JICA、国立保健医療科学院、国立国際医療研究センター等との国際協力連絡・調整等を行っている。
- (2) 日本医療開発研究機構補助金の外国人研究者向け研修等の受入を行っている。

### 3. その他

- (1) 感染研インターネット上の専用ページ「国際協力」において、国際研究活動の情報を提供している。
- (2) 所内専用ページにおいて、全ての職員の海外活動情報(海外出張報告書)の還元、外国人研究者の来日に係る手続きや日本学術振興会交流事業にかかる応募情報等掲載している。